

平成29年度 四日市市環境活動賞 受賞者 四日市公害マンガプロジェクト

●表彰活動の内容

■制作活動

・四日市公害犠牲者の遺族や関係者に取材を行い
四日市公害を題材にしたマンガ
『ソラノイト〜少女をおそった灰色の空〜』を制作

・『ソラノイト』の他に研究者や教員、遺族や報道記者など
総勢12人の文章や対談を収録した書籍
『空の青さはひとつだけ—マンガがつなぐ四日市公害』を出版

■講演・体験学習活動

・国際基督教大学(ICU)と連携し、講演会を実施
学生たちが『ソラノイト』を英訳する授業に携わる

・若者を対象にしたワークショップイベントなども開催



●活動の目的



四日市公害を経験した人々の
高齢化により進んでいる歴史の風化



公害を知らない若い世代が
関心を持つきっかけになるように、
マンガという媒体を通してわかりやすく
四日市公害について発信したい

四日市公害を経験していない世代が、
歴史をありのままに伝えることは難しい。

しかし、歴史から学んだことを通して
今の世の中との接点を見つめ、
自分なりの解釈を表現していくことで
新たな関心が生まれ、
後世につなぐことが出来るのではないか。



●活動の内容(詳細)

2015年から国際基督教大学(ICU)の授業で学生
が『ソラノイト』を英語に翻訳するプロジェクトに
携わる。翻訳という作業を通して、公害の歴史や
当時生きた人々の感情への理解を深めた。



2016年には『よっかいちこうがい未来カフェ』を
開催し、ワールド・カフェという対話の手法で『ソラ
ノイト』を活用したワークショップを実施。作品から
何を感じたか、なぜそう感じるのかを意見交換。

出版記念講演会では公害を経験した世代と若い世代の
2つの対談を行い、娘を亡くした遺族の悲しみや、時代
に合った発信の仕方や表現の可能性について語る。



携わった講演会やイベントは計6回。参加者の合計は約557名。
初めて四日市公害に関するイベントに参加した人が数多くおり、若者たちへ興味・関心を向けることが出来ました。

●経歴(概要)

- 2014.7 四日市公害マンガの構想、遺族や関係者への取材開始
- 2015.9 『ソラノイト』完成、公害犠牲者合同慰霊祭で作品を展示
- 2015.12 国際基督教大学にて講演会、翻訳授業を実施
- 2016.3 四日市公害と環境未来館にて『よっかいちこうがい未来カフェ』を主催
- 2016.7 『空の青さはひとつだけ』出版、出版記念講演会を共催(四日市再生「公害市民塾」)
- 2016.9 名古屋丸善にて重版記念トークイベント『イト』にたくして』を主催
東京大学にて研究会『マンガと哲学の対話』で活動事例報告
〈活動期間(2017年8月1日現在: 3年1か月)〉

●今後の予定

■英訳版冊子を制作

『ソラノイト』のマンガは翻訳のためにあらかじめ左綴じ+横向きの吹き出しで構成しているため、
英訳版の冊子を作り、日本だけでなく様々な国の方に読んでいただけるようにしたい。

■活用法の共有

学校の授業や教員向け講習などでの書籍の活用事例をまとめ、教員や研究者と共有したい。

■点字化・音訳化

四日市市立図書館の点字ボランティアの方によって書籍の点字・音訳作業が進められており、
耳の聞こえない方や目が見えない方にも読んでいただけるようになる。